

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	平成 20年 8月 12日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 00分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム がじゅまる (鹿児島県)
-------------------	---------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 <u>浜田 千里</u>
	氏名 <u>水流 涼子</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>早川 百合枝</u> ヒアリングを行った職員数 2 名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4679000127号		
法人名	有限会社 孝誠		
事業所名	グループホーム がじゅまる		
所在地	鹿児島県大島郡喜界町大字 志戸桶 4545 番地 (電話) 0997-55-507		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4丁目2番6号		
訪問調査日	平成20年8月12日	評価確定日	平成20年10月25日

【情報提供票より】(20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計9人	
職員数	12人	常勤7人, 非常勤5人, 常勤換算8.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	一日200 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800円		

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	5名	要介護2	1名
要介護3	1名	要介護4	2名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 88歳	最低 76歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	喜界町国保診療所医療法人中澤医院・医療法人喜界徳洲会病院・林歯科医院
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

喜界島の北東部に位置し緑豊かな閑静な所で、周囲にグラウンドや公園・海水浴場があり、グラウンドで楽しげに遊ぶ子どもたちの声が聞こえてくる場所に開設されているホームである。職員は地域の暮らしぶりに触れる機会の多い中で、入居者が安心して暮らしていけるケアを目指している。夜勤を二部制にして利用者の安心や職員の健康管理につなげている。職員は明るく活発で人間関係を大切にして、真心で入居者に接している。また、人々との関わりを大切にしている土地柄であるため、地域との交流は深く、デイサービスや子ども110番の家を受託した活動をしており、地域密着型サービスを実践している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	重度化や終末期に対して本人・家族等・職員・主治医・医療機関と話し合い、方向性として統一した指針を定め職員も共有している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し全員で熱心に取り組み、前回の改善課題も含めて話し合い、改善に取り組みサービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は定期的に行われている。ホーム周辺の道路の改善についての意見などが出され、その改修の見直しが行われるなど、地域やホーム・行政との協力関係が深まっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は、家族の来訪時や家族会等で意思の疎通を図り、意見や要望など出しやすい雰囲気づくりを心がけている。尿とりパットの使用などについて要望が出され、対応について反映し家族等に喜ばれている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	集落行事に参加し、幼稚園児・小学生のボランティア来訪や、偶数月には、集落の高齢者と茶話会をしたり、病院受診時の折は、待合所で地域の人たちと交流している。また、絵画教室や子ども110番の家を受託し幅広い交流ができています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に作成した理念を、職員の意見を集約して見直しを行い、地域密着型サービスの意義と役割、地域で暮らし続けるための理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目につく場所に掲示し、認識できるようにしている。ケア会議や日々の支援の中で確認しあい共有に努めケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	集落行事に参加したり、幼稚園児・小学生のボランティア来訪や偶数月には集落の高齢者と茶話会をしたり、また病院受診の折は待合所で地域の人たちと交流している。また絵画教室や子供110番の家として幅広い交流ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、全員で熱心に評価に取り組み、前回の改善課題も含めて話し合い改善に取り組みサービスの質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催されている。ホーム周辺の道路の側溝に海水が逆流し、道路が水浸しになるとの意見などがでて、側溝の改修の見直しにつなげるなど、サービスの質の向上に活かしている。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者に事務所の運営やサービスについて相談している。また町営の老人施設を災害時の避難場所とする等協力関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に配布している月次報告や家族会・来訪時などに心身の状況や暮らしぶり、職員異動等を報告している。金銭管理は出納帳で管理し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族等の来訪時や家族会等で意思の疎通を図り、意見や要望など出しやすい雰囲気づくりを心がけている。尿とりパッドの使用についての要望が出され、使用を減らしていくなどの工夫がなされ、家族等に喜ばれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は少なく馴染みの関係ができています。また、新職員には利用者に早く顔を覚えてもらい馴染みの関係ができるように工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月ごとのホーム内職員会議の中で勉強会を行っている。外部研修は段階に応じた研修に参加し、研修報告がされて共有できている。島内での研修機会を設けてもらうよう行政に相談している。また、資格取得にチャレンジしている職員に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国・県・大島郡のグループホーム協議会に参加している。島内では一事業者であるため島内の事業所との交流は交替で参加するように努力している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	共用型通所介護を併設しているため、そこから安心して移行するようにしている。地域の顔見知りの職員が関わっており、入居者との馴染みの関係ができています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の関わりの中でその人の特技を発見したり、特有のしきたりや薬草の効能等教えてもらっている。また入居者の感謝の言葉や笑顔に職員は元気をもらいながら日々を共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に話しかけたり、行動や表情を観察して、希望を把握して思いや意向に沿うよう把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を基に主治医・職員の意見を活かし、職員会議などの意見を取り入れて、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しをしている。入居者の入退院などの状態変化の折は、そのつどモニタリングを行い見直している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の状況や要望に応じて病院受診や墓参り・知人宅・自宅訪問・特別な外出など必要な支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を継続できるように支援している。かかりつけ医療機関と連携を取っており定期検診や緊急時の協力体制ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して本人・家族等・主治医・医療機関と話し合い、方向性を統一した指針を定めて職員も共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議等で職員の意識向上を図っている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。職員採用時は個人情報保護の誓約書も取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れの中で、起床・食事・入浴時間・就寝など、その人の生活リズムと身体状況を大切にしながら、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや盛り付け・配膳・下膳など、できる事を一緒に行いながら職員も同席して食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一人ひとりの希望や体調などに合わせて対応し、タイミングを計って支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事準備・洗濯物たたみ・レクリエーションなど、一人ひとりの得意な事や好きな事に力を発揮できるように支援している。また買い物やドライブ・ふるさと訪問・知人宅・自宅訪問等、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物に出かけている。また、遠足や地域行事・見学等気軽に外出し、閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を理解しており、プライバシーに配慮しながら見守りに努めている。入居者は開放的で自由な生活をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的に昼間および夜間を想定した避難訓練を実施している。消防署の指導による訓練も行っており、地域住民の協力関係もできている。災害時の備蓄もしている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックして一人ひとりの状態に応じた摂取量確保ができるように支援している。身体状況に合わせてゼリーの使用やミキサー食を取り入れている。栄養バランスは保健センターの栄養士にアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間は清潔で、外気との温度差がなく、入居者にとって慣れ親しんだ生活の環境作りになっている。トイレや居室の標示にも工夫がなされ、随所にくつろげるスペースの確保がされるなど、入居者はゆったりと居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・扇風機・籐の椅子・寝具・うちわ・柳ごうり・衣類箱等使い慣れた物品が持ち込まれている。また個性ある居室で、それぞれが自宅で生活しているような居室作りになっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNET に公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。